

円相場、26年3月末に1ドル=150円程度 野村アセットの前田氏－相場を読む

2026/01/07 04:00 日本経済新聞電子版 698文字

外国為替市場で対ドルの円相場は為替介入への警戒感から、円安の進行が一服している。1ドル=156円台程度での推移が続き膠着感が意識されている。野村アセットマネジメントの前田有司シニア・インベストメント・オフィサーに見通しを聞いた。



野村アセットマネジメントの前田有司シニア・インベストメント・オフィサー

◇
年度末にかけ1ドル=150円程度まで上昇するとみている。2025年に日米の政策金利差は1.25%程度縮小し3%を切った。過去の局面を振り返ると金利差が3%以下になると急速に円高が進む場面が見られた。金利差縮小による円高・ドル安が進行し1ドル=150円を割る場面もあると考えている。

26年の1~3月は日銀と米連邦準備理事会（FRB）の両中銀がともに金融政策の調整の影響を見極め、金融政策の変更は行われないとみている。米国を含め各国の政策金利が景気を熱しも冷ましもしない中立金利の水準に近づきつつあり、26年は政策金利を据え置く国が増えてくるだろう。

併せて先進国は拡張的な財政政策にかじを切っている。財政悪化懸念による悪い金利上昇が起きれば金融政策より財政政策が市場を振り回しそうだ。

高市早苗首相が早期の衆院解散・総選挙に踏み切れれば、財政拡張への懸念から円安進行を予想する向きもある一方で円高材料にもなり得る。足元の高市政権の高い支持率を鑑みれば与党である自民党の議席が大幅に伸びるだろう。政権が長期的に安定するとの期待感から円が買われると予想する。

トランプ関税が懸念されていた25年と比較し、26年は不確実性が低下し落ち着いた市場環境が想定されている。仮に想定外の下振れリスクが発生した場合の相場のボラティリティー上昇に注意したい。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。
本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。
本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。
Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.

許諾番号 001476 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。